

1 白根小学校 図書館教育の重点目標

本に親しむとともに、本に対する興味関心を高め、図書を活用する力の向上を図る。

2 児童の実態

(1) 読書センターとして

年度初めの時間割を決める際に、図書館の割り当てをし、週1時間は図書の時間を入れてもらったり、全校で、朝学習に読書を設定してもらったりして、読書に親しむ時間を確実に行うようにしている。また、低学年では、図書の時間に司書による読み聞かせをしてもらい、本の世界に浸ったり、楽しい本を紹介してもらったりして読書への意欲を高めるようにしている。そのため、全体に絵本や文学の貸し出し冊数が多い。

しかし、20分休みや昼休みなどはグラウンドや体育館で遊ぶ児童が多く、図書館で過ごす児童が少ないので、進んで図書館に来る児童を増やしたいと感じている。

(2) 情報センターとして

現在の図書館の蔵書冊数は、基準を満たしている。そのため、調べ学習などで特定のテーマについて図書を集める際にも、ある程度の冊数を揃えることができている。しかし、クラスの人数分揃わないことも多く、これまでは2人で1冊利用などすることができたが、新型コロナウイルスの感染対策で複数人での利用ができない場合、必要な冊数を揃えられなかった。

また、学校規模の割に読み物(9類)の図書が少ないと感じている。今後新しい資料や読み物を増やしていく必要がある。

(3) 学習センターとして

各学年で、図書館年間活用計画を作成し、図書館を利用した学習や調べ学習などを位置付けて計画的に利用している。昨年度は新しい教科書に合わせ、年間活用計画も作り直し、今年度も見直し(加除修正)を行っている。児童は様々な教科で複数回調べ学習を行うことで、図書館での資料の探し方や調べ学習の方法などを少しずつ身に付けてきている。

しかし、多くの資料から適切な資料を選ぶことや、索引を使った調べ方など効率よく資料を見付ける方法を知らない児童もまだ多い。主体的な学習ができる児童を育てるためにも、基本的なスキルを教える必要があると感じた。

3 今年度の取り組み

(1) 読書センターとして

① 読書タイムの設定

年度初めに朝学習に読書を入れるよう、全校にお願いした。原則月、水、金の朝学習は読書である。8時15分から8時半までの15分間、じっくり読書をしている。白根小学校が今年度NIEの指定校になったため、7月から金曜の朝学習は「NIEタイム」として担当が新聞記事を紹介したり、読み聞かせたりして新聞に親しむ時間として利用している。



また、朝学習だけでなく、授業の隙間時間等も読書をしてもらうよう、声掛けを行い、各クラスに図書館の割り当てをし、定期的に図書館を利用してもらえるようにした。

② 司書による読み聞かせ

低学年、中学年の図書の時間に司書による読み聞かせを行い、季節や行事等に合わせた本を選んでもらっている。読んでもらった本を借りて自分ももう一度じっくり読み直したり、同じシリーズの本を借りたりする様子が見られ、児童の読書への興味関心を高めている。

③ 季節感のある掲示物等

児童に何度も足を運んでもらうために、楽しい図書館にしようと掲示物を工夫した。季節感あふれる掲示を心がけ、わくわくする図書館を作った。



七夕やハロウィン、クリスマスなど季節感あふれる掲示

④ ALT との連携

ALT の協力を得て、季節の行事やイベントと外国語活動を関連付け、ミニイベントを行った。東京オリンピックの時は、ピクトグラム探し、クリスマスの際はクロスワードパズルなどである。クイズに答えたらワークシートをALTに渡し、○付けをしてもらった。図書館にワークシートを置いたので、誰でも自由に参加することができた。また、答えが分からない時、下学年が上学年に聞いたり、友達と協力して取り組んだりする様子が見られた。このミニイベントを行うことによって、図書館への来館が多くなった。

⑤ ボランティアによるお話会

毎年読書旬間中にボランティアの方からお話会（読み聞かせ会）を行ってもらっている。今年度もお願いした。各クラスに1名のボランティアが入り、低学年30分、中高学年は45分読み聞かせや語り（物語の暗唱）を行った。じっくり物語の世界に浸ることができ、物語の世界を楽しむことができた。

(2) 情報センターとして

① 白根大風の資料のまとめ

白根大風合戦に関する資料をまとめ、コーナーを設置した。当校では、4年生の総合学習で、白根大風合戦をテーマにしている。そのため、大風合戦の歴史や風の作り方等を調べる際、



このコーナーは大変役立っている。また、「郷土資料コーナー」として、白根大嵐以外の郷土資料も併せて展示して、自分たちの生活している地域に興味をもってもらえるようにした。

② 図書リクエストカードの利用

図書館活用年間計画に図書館を利用する単元を位置付け、確実に行うよう声を掛けている。その際、必要な図書を司書に揃えてもらうために「図書リクエストカード」を利用している。このカードは司書の机上にあり、職員が随時記入することができる。司書は、そのカードを見て、必要な資料を揃え、学校図書館だけでは足りない場合は公共図書館も利用して資料を揃えている。利用後、担任は使ってみての感想や要望を伝え、より使いやすい資料の収集に役立っている。

③ 新聞コーナーの設置

今年度、白根小学校は「NIE 研究指定校」となっている。そのため朝学習に新聞を読む時間を設定したり、校内に新聞を読むコーナーを設置したりしている。図書館でもその一環として新聞コーナーを設置し、白根地域や児童の興味関心を引きそうな記事を選んで掲示した。



(3) 学習センターとして

① 児童に分かり易い表示

児童が図書館で図書や資料を探す時にすぐに見付けることができるよう、本棚を整理整頓すると共に分類番号や五十音の見出しなどを付けている。そのため、1年生でも自分で本を正しく返却することができ利用しやすい図書館となっている。



② 6年間を見通したスキルの指導

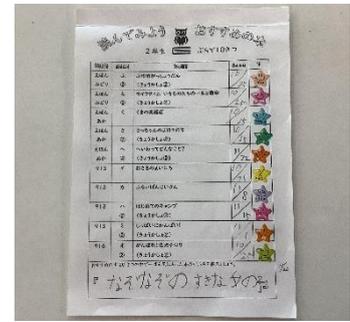
自分で必要な資料を探したり、見付けた図書や図鑑から必要なページを見付けたりすることが、適切にできない児童もまだ多い。そこで、各クラスの図書館配当時間を使い、低学年から少しずつ系統立ててスキルを身に付けさせる。図書館利用をする上で必要なスキルを6年間で身に付け、小学校卒業後も主体的に図書館を利用できる児童を育てたい。ただし、今年度から始めた取り組みなので、どのようなスキルをいつ取り扱うか等は現在検討中である。



(4) 三校連携としての取り組み

① おすすめの20冊(小林小学校との連携)

各学年におすすめの本を20冊、小林小学校と同じものを薦める。1冊読み終わるごとに図書館司書からカードにシールを貼ってもらい、10冊読み終わるごとに、賞状をもらう。子ども達には、読書の楽しさを知るとともに、自分では選ばない、様々な本を手にとってほしいと考えた。



② 読書郵便

今年度初めて、中学校区3校の図書委員による読書郵便を実施した。それぞれの図書委員会が、おすすめの本を大型はがきに書き、読書旬間中に交換、展示を行った。展示は全校に見てもらえるよう、図書館に展示した。また、図書委員には、紹介された本を「読んだことがある」「ぜひ読んでみたい」といった感想を○に色を塗る方法で表してもらった。最後にまた大型はがきを各校へ戻すことで、紹介した本がどう評価されたかそれぞれが確認した。



4 成果と課題

(1) 読書センターとして

- ALTの協力の下、季節やイベントに合わせた掲示や本の展示、クイズなどを行った。7月の七夕、9月は東京オリンピック、10月はハロウィン、11月は読書旬間、12月はクリスマス为主题にした。季節ごとに変わる掲示やイベントに児童は繰り返し図書館へ足を運んでいた。
- 図書館割り当てや朝読書の実施等で読書をする時間を確保できた。そのため、一人一人の貸し出し冊数などは増えてきており、本に親しんでいる様子が見られる。また、低学年中心に読み聞かせをしているため、読み物(9類)以外の図書にも関心を持たせることができた。科学読み物などの貸し出しも増えてきている。
- 保護者ボランティアの協力もあり、図書の修繕や図書館の整理整頓、掲示物づくりなどがスムーズに行われた。わくわくする図書館を作ることができた。
- 三校連携の取り組みでは、「おすすめの本」の紹介はシールや賞状をもらうことでさらに意欲をもって取り組むことができた。また、貼ってもらったシールを友達と見せ合うことでもっと読もうという意欲付けにもなった。

「読書郵便」では、白根小学校の卒業生である白根第一中学校の生徒からの郵便であったので、興味深くはがきを読んでいる様子が見られた。また、紹介された図書が自分も読んだことがあるものであったり、初めて見るものであったりし、今後の読書意欲につながるものであった。

- △ 図書館割り当てがあるが、高学年は毎週利用することが難しい。その為、読書が好きな児童はよく利用するが、読書が苦手な児童は図書館から足が遠のくようであった。読書があまり好きではない児童に来てもらえるような工夫がさらに必要である。

(2) 情報センターとして

- 各学年で「図書館活用実践報告」を出してもらった。それによると、各教科等での調べ学習では、

図書館司書の準備した資料がきちんと準備され、学習が行われたことが分かった。また、毎年この報告を書いてもらい、要望や改善点も出してもらっているので、少しずつ使いやすくなってきている。

- △ 調べ学習の際、調べたいテーマに沿った図書が学級の人数に対して少ないこと、児童にとって分かり易い資料に限られていること、そのため、少ない資料に大勢が集まってしまうことなどが問題となった。
- △ 必要な図書を用意するために、担任は児童がどんな図書を利用したいと考えているのかを把握し、司書に伝え、必要な図書を集めなくてはならないことに改めて気付いた。その為、年間指導計画、図書館年間活用計画を見て早め早めの準備が必要であることを感じた。担任から声がかかるのを待つだけでなく、図書館部からも「そろそろ〇〇の学習ですが、図書集めましょうか」など声をかけていくことも有効だと考える。

(3) 学習センターとして

- 図書館年間活用計画を見て、各学年とも確実に調べ学習を計画的に行うことができた。また、年間活用計画があることで、担任もいつ、どの教科でどんな調べ学習が必要なのか見通しをもって学習を進めることができた。
- 年間を通して、児童は調べ学習を数回行うので、そのたびに図書の選び方や、必要なページの見つけ方などを身に付けることができてきた。
- 図書館司書による調べ学習のスキル授業（2年生「索引の使い方」4年生「百科事典での調べ方」）は、授業後、児童が実際にそのスキルを使って調べ学習を行うことにより、スキルを身に付けることができ、大変有効であった。
- △ 図書館の利用の仕方や調べ学習に必要なさまざまなスキルを低学年から系統的に身に付けていくことはよいことだと感じた。今後6年間を見据えて細かな計画（いつ、どのスキルを指導するか）を作ることが必要である。

5 おわりに

白根小学校では、今年度図書館活用推進校になり、主に「情報センター」「学習センター」としてどうあればよいか考え、実践を行ってきた。児童に自分が興味ある事を調べる楽しさを感じてもらいたい、そのためにはどのような図書を準備したらよいのか、どのように工夫したら使いやすいのかなどを考えてきた。

その結果、リクエストカードや図書活用授業シートを利用し、良かった点や改善点を挙げてもらった。今年度はまた、新しい取り組みとして、調べ学習に必要なスキルを図書の時間を利用して図書館司書から授業もしてもらった。まだ一部の学年と一部のスキルについてだけしか実践できていないが、来年度以降も継続して実践を積み上げることで、確実に児童に力が付いてくるものと考えます。

児童、職員にとって利用したいと思える図書館を目指して、今後も努力をしていきたいと思う。